

序論

インドネシア語で、確信していない事を話す時は” *mungkin*”、” *barangkali*” と言う言葉が使われる。日本では、” *mungkin*”と言う言葉は、「だろう」と「かもしれない」と言う。

確信していない事を話す時は、「だろう」と「かもしれない」は男の人は女の人も使う事ができる。

「だろう」と「かもしれない」は助動詞で、助動詞は動詞を助ける。「だろう」と「かもしれない」は推量の助動詞である。推量の助動詞は、物事または人の心を推測する時に使われる。

「だろう」と「かもしれない」は同じ意味を持っているので、筆者は形態論の理論と統語論の理論を使って、「だろう」と「かもしれない」の使い方を分析する。

形態論を使って、形態素の分類と形態素の構成を分析する。そして、統語論を使って、文章の機能と言語の位置を分析する。さらに、「だろう」の使い方と「かもしれない」の使い方の相違を分析する。

本論

「だろう」と「かもしれない」についての分析は、次の通りである。この分析は品詞分類を土台としている。

「だろう」

1. 動詞 + だろう 例 : 行く + だろう =》 行くだろう
2. 動詞 + の + だろう 例 : 見ていた + の + だろう =》 見ていたのだろう

3. 名詞 + だろう 例 : もの + だろう =》 ものだろう
4. 形容詞 + だろう 例 : 大丈夫 + だろう =》 大丈夫だろう
5. 疑問詞 + だろう 例 : どうして + だろう =》 どうしてだろう

「かもしれない」

1. 動詞 + かもしれない 例 : 行く + かもしれない =》 行くかもしれない
2. 動詞 + の + かもしれない 例 : いない + の + かもしれない =》 いないの かもしれない
3. 名詞 + かもしれない 例 : もの + かもしれない =》 ものかもしれない

この論文で、筆者は形容詞の理論と統語論の理論を使って分析する。

分析の例 :

1. だが飯をやらなかったら、どこへ行くだろう。(武者小路実篤 11)

「行く」は動詞である。「だろう」の前に「行く」と言う動詞がある。形態論から分析すると、「行く」は自由形態素である。統語論から分析すると、

「行く」は述語一部分である。

1 の文の中には二節がある。

一 節 : だが飯をやらなかったら

二 節 : どこへ行くだろう。

「だろう」は「行く」に付いているので、「だろう」は述語の一部分である。

1 の文の中に疑問詞がある。疑問詞は他人の意見を尋ねる時に使われる。また、「だろう」は他人の意見を尋ねることができる。

2. 卑怯な事かもしれない。(<http://sngngs.fc2.web.com/text-1.html>)

「事」は名詞である。「かもしれない」の前に「事」と言う名詞がある。形態論から分析すると、「事」は自由形態素である。統語論から分析すると、「卑怯な事」は述語の一部分である。その文の中に一つの名詞句がある。それは「卑怯な事」である。

2 の文の中に疑問詞がない。「かもしれない」は、他人の意見を尋ねる時に使われない。

3. なぜだろう。(<http://sngngs.fc2.web.com/text-1.html>)

「なぜ」は疑問詞である。「だろう」の前に「なぜ」と言う疑問詞がある。形態論から分析すると、「なぜ」は自由形態素である。統語論から分析すると、「なぜ」は述語の一部分である。

「だろう」は他人の意見を尋ねることができる。

4. 君の力ぐらいなら、大丈夫だろう。(武者小路実篤 23)

「大丈夫」は形容詞である。「だろう」は大丈夫を説明する。この文を統語論から分析すると、「大丈夫」は述語の一部分である。この文は確信してい

ない事を話す時に使われる。形態論から分析すると、「大丈夫」は自由形態素である。また、「だろう」は自由形態素につくことができる。

5. あなたは訴えられるかもしれない。(http://homepage3.nifty.com/~autumn/short/ss_yume.htm)

統語論から分析すると、「あなた」は主語である。「訴えられるかもしれない」は述語である。「かもしれない」は述語の一部分である。形態論から分析すると、「あなた」は自由形態素である。述語、は動詞と助動詞から構成される。動詞は受け身形で、「訴える」に「られる」がついた形になる。形態論から分析すると、「られる」は拘束形態素である。また、「かもしれない」は拘束形態素につく。

6. いつこの村へ越してきたのだろう。(小川未明 39)

統語論から分析すると、「越してきたのだろう」は述語である。「だろう」は「越してきたの」に付いているので、「だろう」は述語の一部分である。形態論から分析すると、「の」は拘束形態素である。また、「だろう」は拘束形態素につく。

結論

文を機能から分析すると、「だろう」と「かもしれない」は述語の一部分である。述語は名詞、動詞、形容詞に「だろう」または「かもしれない」がついた形になる。

例：「だろう」

名詞 : ~ ものだろうか。(壺井栄 83)

動詞 : ~ 行くだろう。(武者小路実篤 11)

形容詞 : ~ 大丈夫だろう。(武者小路実篤 20)

例：「かもしれない」

名詞:~ 子かもしれない。(壺井栄 23)

動詞:~訴えられるかもしれない。(http://homepage3.nifty.com/~autumn/short/ss_yume.htm)

「だろう」と「かもしれない」は述語を説明する。「だろう」と「かもしれない」は、推量することに使われて、確信していないことを話す時に使われる。

「だろう」と「かもしれない」を分析して、次の結論を引き出すことができる。

1. 「だろう」と「かもしれない」は、自由形態素と拘束形態素につくことができる。
2. 「だろう」と「かもしれない」は、述語の一部である。

3. 「だろう」は他人の意見を尋ねることができる。しかし、「かもしれない」は他人の意見を尋ねることができない。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	i
DAFTAR ISI.....	iii
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	5
1.3 Tujuan Penelitian.....	5
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian.....	5
1.5 Organisasi Penulisan Skripsi.....	6
BAB II LANDASAN TEORI.....	7
2.1 Morfologi.....	7
2.1.1 Proses Morfemis.....	8
2.1.2 Pembagian Jenis Kata.....	10
2.2 Sintaksis.....	11
2.2.1 Satuan Sintaksis.....	12
2.2.2 Fungsi Sintaksis.....	17
2.3 Verba Bantu.....	23
BAB III ANALISIS.....	27
3.1 Analisis Jodoushi Darou.....	28
3.2 Analisis Jodoushi Kamoshirenai.....	42
BAB IV KESIMPULAN.....	51
SINOPSIS	
LAMPIRAN I	
LAMPIRAN II	
BIOGRAFI PENULIS	
DAFTAR PUSTAKA	